

「公園緑地施設標準図集
平成30年4月（令和4年7月修正）」

使用の手引き

平成30年4月
（令和4年7月修正）

横浜市環境創造局

本資料は、公園緑地施設標準図集に掲載されている施設の使用上の留意点や、構造根拠をまとめたものです。公園緑地施設標準図集を用いて設計をする際の参考としてください。

なお、本資料の内容はあくまでも標準的な現場条件におけるものであり、現場条件によっては、別途検討を行ってください。

0 共通	1	コンクリート縁石（歩車道）	7
共通事項	1	プラ擬木階段	7
1 基盤／S 1 基盤：参考図	1	S 6 園路広場：参考図	7
プラ擬木土留め	1	密粒度アスファルト舗装	7
2 植栽／S 2 植栽：参考図	1	タイル舗装	8
共通事項	1	7 遊戯施設／S 7 遊戯施設：参考図	8
張芝（コウライシバ）	1	共通事項	8
張芝（ノシバ）	2	すべり台（小）（大）	8
植穴寸法図	2	ブランコ（児童用2連）（児童用4連）	9
3 給水設備	2	（幼児用2連）（幼児用4連）	9
止水栓きょう	2	砂場	9
止水栓ボックス	2	8 サービス施設	9
散水栓ボックス	2	共通事項	9
給水管	2	ベンチ	10
4 排水設備	2	野外卓	10
共通事項	2	水飲み	10
L型側溝	2	公園愛護会掲示板	10
U型側溝	2	9 管理施設－1《車止め・門柱》	10
横断溝	3	車止め共通事項	10
U型側溝コンクリート蓋	3	車止め	10
U型側溝グレーチング蓋	3	門柱	11
L型雨水樹	3	10 管理施設－2《柵・手すり》／	
U型雨水樹	3	S 10 管理施設－2《柵・手すり》：参考図	11
横断溝雨水樹	3	パイプ柵・縦格子柵・プラ擬木柵	
硬質塩化ビニル管	4	共通事項	11
塩化ビニル樹	4	パイプ柵（1段）（2段）	11
S 4 排水設備：参考図	4	縦格子柵	11
硬質塩化ビニル管	4	手すり（1段）（2段）	12
5 電気設備／S 5 電気設備：参考図	5	メッシュフェンス・ネットフェンス	
共通事項	5	共通事項	12
定額分電盤（1・2回路）	5	メッシュフェンス	13
メーター分電盤（2～4回路）	5	ネットフェンス	13
トイレ用メーター分電盤（2～3回路）	5	コンクリート柵	13
時計（照明灯共掛）	5	ロープ柵	13
ハンドホール	5	番線柵	13
6 園路広場	6	プラ擬木柵	13
共通事項	6	縦格子柵（手すり付）	13
ダスト舗装	6	単管柵	13
開粒度アスファルト舗装	6		
洗い出し平板舗装	6		
石張り舗装	6		
インターロッキング舗装	6		
洗い出し舗装	7		
視覚障害者誘導用ブロック舗装	7		
視覚障害者誘導用インターロッキング舗装	7		
コンクリート縁石（地先）	7		
コンクリート縁石（公園）	7		

0 共通

名称	記号	内容
共通事項	—	<ul style="list-style-type: none"> 均しモルタルについて 環境に配慮するため高炉Bセメントを使用しているが、少量使用（1現場で概ね4 t未満）で入手し難い場合は普通ポルトランドセメントを使用できる。 基礎・裏込用の再生クラッシャーラン（RC-40）について 原則として民間施設で再生された材料を使用するが、調達できない場合に「がれき類の再資源化施設」の再生材または新材を使用できる。

1 基盤 / S1 基盤：参考図

名称	記号	内容
プラ擬木土留め	GD-20 GD-40 GD-60	<ul style="list-style-type: none"> 構造計算の必要の無い場所に使用する。

2 植栽 / S2 植栽：参考図

名称	記号	内容
共通事項	—	<ul style="list-style-type: none"> 樹木支柱は、基本的には樹木等の根が伸張り自立するまでの養生として設置するものであるが、植付けの状況等を考慮し必要なときは恒常的に設置する場合もある。 樹木支柱は、幹周表示は高木（原則として植付け時の樹高3m以上）、樹高表示は中低木（同3m未満）に適用する。 なお、中低木等で植付け直後の強風でも倒れる可能性が極端に少ない場合で他に必要な要因がないときは、支柱の設置は不要である。 樹木支柱は、道路植栽を除き基本的には三本支柱を使用するものとし、樹形・植え場所・植付け形態等の状況を考慮し他の支柱を使用できる。 (例) 真竹布掛支柱：中低木の列植 生垣支柱：生垣用樹木の、枝葉繁茂までの暫定通抜け防止等 鳥居・合掌支柱：植え場所が狭い・下枝の無い樹木等 鳥居(添木付き)：上記に加えて、幹が折れ易い(細い)樹木 やぐら支柱：枝張・葉張が顕著等、より多く風をうける樹木等 支柱材料は、環境に配慮して防腐剤無処理品を使用している。 耐用年数は、真竹で1～3年、杉丸太で2～4年程度である。 特に耐久性を要する場合は鋼製品等を、景観演出を心掛ける場合は地下支柱を検討する。
張芝 (コウライシバ)	HS-KA HS-KB HS-KC HS-KD	<ul style="list-style-type: none"> HS-KEは、竹串が長期間残存してけがの原因となることがあるため、使用する場所の条件を考慮する。 目土は、厚さ2cm（ほぐし土量で2m³/100m²程度）を標準とする。

	HS-KE	
張芝 (ノシバ)	HS-NA HS-NB HS-NC HS-ND HS-NE	<ul style="list-style-type: none"> • HS-NEは、竹串が長期間残存してけがの原因となることがあるため、使用する場所の条件を考慮する。 • 目土は、厚さ2cm（ほぐし土量で2m³/100m²程度）を標準とする。
植穴寸法図	中低木 高木	<ul style="list-style-type: none"> • 発生残土を減量するため、現場発生土の使用を標準とし、必要に応じて土壌改良・施肥や客土を行う。

3 給水設備

名称	記号	内容
止水栓きょう	SK-A SK-B	<ul style="list-style-type: none"> • メーター上流側に止水栓を設置する場合に使用する。
止水栓ボックス	SK-C SK-D	<ul style="list-style-type: none"> • メーター下流側に止水栓を設置する場合に使用する。
散水栓ボックス	SB-A SB-B	<ul style="list-style-type: none"> • SB-Bは、植栽地や土系舗装内で、横ずれを防止するために使用する。
給水管	SGP-VB HIVP	<ul style="list-style-type: none"> • SGP-VBは、メーター下流側に使用する。 • HIVPは、メーター下流側に使用する。

4 排水設備

名称	記号	内容
共通事項	—	<ul style="list-style-type: none"> • Aタイプは歩行者・自転車道に対応できる。 • Bタイプは管理用車道（最大積載量4t以下（総重量6t以下））に対応できる。 • 雨水浸透施設（U型雨水浸透側溝・各雨水浸透柵）は、地質・土質・地下水位・隣接施設構造物等に条件があるので、最新の「雨水浸透施設設置基準 横浜市環境創造局」を参照のうえ使用する。
L型側溝	LS-25 LS-25R LS-25S LS-25SR LS-25K LS-25KR LS-25K10	<ul style="list-style-type: none"> • 本ブロック製品（LS-25K10を除く）は、直線用、入隅用（内R・面取側の半径0.75m以上）、出隅用（外R・面取側の半径0.75m以上）である。 • LS-25K10用ブロック製品は、直線用のみである。

U型側溝	US-24A US-30A US-24B US-30B	<ul style="list-style-type: none"> U型ブロックは側溝としての使用を原則とする。側圧に弱いため、管理車両が通行する園路に横断溝として使用する場合は、補強コンクリートを打つか、園路をコンクリート舗装等とする。 横断溝として使用する場合、U型ブロックを園路の縦断勾配に合わせて斜めに据付けることはできない点に注意する。
横断溝	OD-25 OD-30	<ul style="list-style-type: none"> 本ブロック製品の耐荷重はT-20であり、特に荷重のかかる条件で使用する。 歩行者・自転車道に設ける場合は、横断溝ではなく、U型側溝を使用する。（横断溝はU型側溝に比べて非常に高価である。） ブロックの加工・切断が容易でないため、定尺で使用する。 横断溝ブロックを園路の縦断勾配に合わせて斜めに据付けることはできない点に注意する。 本ブロック製品には排水勾配がつけられていないので、必要に応じてモルタルにより調整する。
U型側溝 コンクリート蓋	FCU-24A FCU-30A FCU-24B FCU-30B	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート蓋は側溝としての使用を原則とし、衝撃荷重がかかる箇所には使用しない。
U型側溝 グレーチング蓋	FGU-N24A~C FGU-N30A~C FGU-H24A~C FGU-H30A~C	<ul style="list-style-type: none"> T-2は、総重量2t以下（乗用車・軽トラック程度）の管理車両が通行する園路で使用する。 グレーチング蓋の「並目」は、車椅子・歩行者の通行に支障となる場合があるので、使用場所に注意する。 本グレーチング蓋は、縦断方向での使用を前提として構造が決定されているので、横断倍に使用する場合は、構造を確認する。
L型雨水枡	LMM-N65 LMM-H65 LMM-N85 LMM-H85	<ul style="list-style-type: none"> グレーチング蓋の耐荷重はT-6である。 縁石のすりつけ・切下げ部には設置しない。
U型雨水枡	UM-N24A UM-N24B UM-H24A UM-H24B UM-N30A UM-N30B UM-H30A UM-H30B	<ul style="list-style-type: none"> 側溝部は180° 両側のみで、90° 方向には開口できない。ただし端部枡として片側だけの側溝とすることは可能であり、不要な側溝用開口部はコンクリートやモルタル等で閉塞するか、メーカーに閉塞品を特注する。 側溝部の蓋は含まれていない。
横断溝雨水枡	UMO-25 UMO-30	<ul style="list-style-type: none"> 本ブロック製品の耐荷重はT-20である。 本雨水枡を使用して排水設備計画確認申請を行う場合には、個別に土木事務所と事前協議を行う。 グレーチング蓋は含まれていない。

<p>硬質塩化 ビニル管</p>	<p>VU-100 ~300</p>	<ul style="list-style-type: none"> • T-6の荷重で、埋戻土が粘性土、単位体積重量18KN/m^3、内部摩擦角25°の場合に、構造上使用可能な土被りの範囲は、管径別に次の表のとおりである。 ただし、横浜市では、布設場所等に応じた最低土被りが「横浜市排水設備要覧」に定められているため、原則としては、これに基づき定めた「公園緑地設計指針」に示す土被りを確保する。 また、「下水道用硬質塩化ビニル管道路埋設指針」では、工事中の工事車両による一時的な荷重を考慮し、道路内での最低土被りを50cm以上と規定していて、公園緑地内においても工事車両（大型車）の通行が想定される場合には、この基準による。 <table border="1" data-bbox="743 595 1251 842"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>最低</th> <th>最大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>径</td> <td>100</td> <td>10</td> <td>490 cm</td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>150</td> <td>0</td> <td>640 cm</td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>200</td> <td>10</td> <td>590 cm</td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>250</td> <td>10</td> <td>530 cm</td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>300</td> <td>10</td> <td>520 cm</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> • 硬質塩化ビニル管布設時の基礎材料の使い分けは次のとおりとする。 ただし、特殊な現場条件の場合には現場条件に応じた材料を使用するものとし、湧水が多い場合は川砂を用いるのが効果的である。 ① 使用量が100m^3未満の場合 基本的には横浜市環境創造局改良土プラントの改良土を使用する。なお、この改良土プラントは今後変更になることがある。 ② 使用量が100m^3以上の場合 砂（埋戻用）を用いた場合と改良土を用いた場合を、敷設に伴い搬出する発生土に係る費用（運搬費・処分費等）も含めて比較し、安価な材料を使用する。 • VU-100はトイレの汚水系統に限って使用できる。 			最低	最大	径	100	10	490 cm	径	150	0	640 cm	径	200	10	590 cm	径	250	10	530 cm	径	300	10	520 cm
		最低	最大																							
径	100	10	490 cm																							
径	150	0	640 cm																							
径	200	10	590 cm																							
径	250	10	530 cm																							
径	300	10	520 cm																							
<p>塩化ビニル桝</p>	<p>VM-20</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 便所等、埋設物が錯綜する車荷重のかからない箇所の汚水桝に使用する。 • 合流点の$\phi 150$受口と$\phi 100$流入部は、偏心ソケットで連結する。 																								

S4 排水設備：参考図

名称	記号	内容
<p>硬質塩化 ビニル管</p>	<p>VU-350 ~600</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 使用にあたっては構造計算を行い、管および基礎の安全を確認する。 • コンクリート管とコストを比較検討する。

5 電気設備 / S5 電気設備：参考図

名称	記号	内容																			
共通事項	-	<ul style="list-style-type: none"> 各分電盤から灯柱等へ送るケーブルは、5.5mm²以上とする。 本表に記載している照明灯の照度範囲はおおよそ次のとおりである。 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>名称/照度(ℓ入)</th> <th colspan="2">0.5 / x</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMH-A110[H・S]</td> <td>半径</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>CMH-A190[H・S]</td> <td>//</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">CMH-C110[H・S]</td> <td>長軸</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>短軸</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">CMH-C180[H・S]</td> <td>長軸</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>短軸</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 各鋼管ポール部材の強度は「日本照明器具工業会規格（JIL 1003）」、また基礎構造は「道路標識設置基準・同解説」に基づき計算を行っており、与条件は次のとおりである。 風速 = 60m/sec 部材の許容応力度 = 2400kg/cm²（SS400・STK400・STKR400） Coの単位体積重量 = 23.0kN/m³ 土の単位体積重量 = 16.0kN/m³ 受動土圧係数 = 3.53 基礎周辺の地盤強度 = N値10・砂質土 底面地盤せん断抵抗・基盤浮力・地震力は考慮しない。 また、基礎に作用する鉛直力は無視する。 	名称/照度(ℓ入)	0.5 / x		CMH-A110[H・S]	半径	18	CMH-A190[H・S]	//	22	CMH-C110[H・S]	長軸	16	短軸	10	CMH-C180[H・S]	長軸	19	短軸	12
名称/照度(ℓ入)	0.5 / x																				
CMH-A110[H・S]	半径	18																			
CMH-A190[H・S]	//	22																			
CMH-C110[H・S]	長軸	16																			
	短軸	10																			
CMH-C180[H・S]	長軸	19																			
	短軸	12																			
定額分電盤 (1・2回路)	BT-AT BT-BT	<ul style="list-style-type: none"> D種接地工を含んでいる。 BT-BTは、盤の近くにハンドホールを設置する。 																			
メーター分電盤 (2~4回路)	BM-AT BM-BT BM-CT	<ul style="list-style-type: none"> 盤の近くにハンドホールを設置すること。 D種接地工を含んでいる。 BM-ATを1回路で使用する場合は、ハンドホールを設けずに異種管接続材（別途計上）を用いる。 																			
トイレ用 メーター分電盤 (2~4回路)	TBM-AT TBM-BT TBM-CT	<ul style="list-style-type: none"> 盤の近くにハンドホールを設置する。 D種接地工を含んでいる。 																			
時計 (照明灯共架)	TJ-S500K	<ul style="list-style-type: none"> 照明灯に共架する場合は各種検討が必要なため、公園緑地整備課設備担当に相談すること。 																			
ハンドホール	HH-45 HH-60	<ul style="list-style-type: none"> 耐荷重は、HH-45がT-6（破壊荷重 60kN・4tトラックの輪荷重に相当）、HH-60がT-8（破壊荷重 80kN）である。よって4t車以上の管理車両が通行すると想定される場所にはHH-45を設置しない。 																			

6 園路広場

名称	記号	内容
共通事項	—	<ul style="list-style-type: none"> ・舗装構成について 本図集に掲載している舗装構成は、歩行者および4 t 車以下の管理車両の通行を前提としている。4 t を超える車両が通行する場合、一般車両が通行する場合（例：駐車場）、管理車両が常時通行する場合（例：サービスヤード）は、車道の舗装構成を別途検討する。 舗装構成の主な根拠は「アスファルト舗装要綱」歩行者系道路舗装の項による。 ・公園内の舗装における透水機能について 小規模な舗装面に降った雨水については、積極的に透水性舗装による浸透をしなくても、これに接する植樹帯等に排水すれば十分浸透させることができるので、図集では透水性舗装としてはアスファルト舗装のみを掲載している。 ただし、舗装が大面積となる場合や植樹帯等への排水が困難な場合は、透水性舗装の使用を検討する。 ・路盤用の再生クラッシャーラン（RC-40）について 原則として「がれき類の再資源化施設」の（路盤材として性能を有した）材料を使用する。ただし調達できない場合は、路盤材としての性能を有した民間施設の再生材または新材を使用できる。 ・縁石について 一般車両が通行する箇所や管理車両が常時通行する箇所に設ける縁石は、別途構造を検討する。（道路局図集参照）
ダスト舗装	DH	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水によるスクリーニングスの流出を防ぐため、舗装面の合成勾配は、1.0%以下とする。 合成勾配=√（縦断勾配²+横断勾配²）
開粒度 アスファルト舗装	KAH-A KAH-B	<ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト舗装の標準は、開粒度アスファルト舗装とする。 ・加熱アスファルト混合物は、原則として「がれき類の再資源化施設」の再生開粒度アスファルトを使用するが、調達できない場合に開粒度アスファルト（新材）を使用できる。
洗い出し平板舗装	FH-A FH-B	<ul style="list-style-type: none"> ・種石の種類、粒径は別途指定する。金華（鹿島）のように種石が丸いものは、粒径が大きいと滑りやすいので注意する ・種石の粒径は9mm内外を標準としている。
石張り舗装	IH-RA IH-RB IH-HA IH-HB	<ul style="list-style-type: none"> ・目地の凹凸が大きく、車椅子の通行に支障となる場合があるので、主要動線での全面的な使用は避ける。
インターロッキング 舗装	LH-A LH-B	<ul style="list-style-type: none"> ・インターロッキングブロックの種類は、標準品の中から別途指定する。（標準品の定義は、「土木工事積算基準・標準歩掛表」を参照） ・急勾配部では、目地砂が流出してブロックがずれることがあるため、敷砂の替りに空練りモルタルを使用するか、他の舗装を検討する。 ・ブロックの縁の面取りが大きいと、目地の凹凸が大きくなり、車椅子の通行に支障となる場合があるので、面取りが大きいブロックの使用は避ける。

洗い出し舗装	JH-A JH-B	<ul style="list-style-type: none"> 洗い出し舗装の伸縮目地は、他の舗装と異なり、1施工単位（1回当りの洗い出し作業が可能な面積）である10mを標準としている。
視覚障害者誘導用 ブロック舗装	YB-FA YB-FB	<ul style="list-style-type: none"> 使用にあたっては、「横浜市福祉のまちづくり条例・施設整備マニュアル」を参照する。 ブロックの色は原則として黄色とする。
視覚障害者誘導用 インターロッキング 舗装	YB-LA YB-LB	<ul style="list-style-type: none"> 使用にあたっては、「横浜市福祉のまちづくり条例・施設整備マニュアル」を参照する。 インターロッキングブロックの色は原則として黄色とする。
コンクリート縁石 (地先)	TE-A1 TE-A2 TE-A3	<ul style="list-style-type: none"> 本ブロック製品は直線用のみである。
コンクリート縁石 (地先)	TE-B1 TE-B2 TE-B3	<ul style="list-style-type: none"> 本ブロック製品は直線用のみである。
コンクリート縁石 (公園)	KE-B KE-BR KE-BK KE-BKR KE-BK10	<ul style="list-style-type: none"> 本ブロック製品は直線用、入隅用（内R・面取側の半径 0.75m以上）、出隅用（外R・面取側の半径 0.75m以上）である。 KE-BK10用ブロック製品は直線用のみである。
コンクリート縁石 (歩車道)	HE-A1 HE-A1R HE-A2 HE-A2R	<ul style="list-style-type: none"> 本ブロック製品は直線用、入隅用（内R・面取側の半径 0.5m以上）、出隅用（外R・面取側の半径 0.5m以上）である。
コンクリート縁石 (歩車道)	HE-B1 HE-B1R HE-B2 HE-B2R	<ul style="list-style-type: none"> 本ブロック製品は直線用、入隅用（内R・面取側の半径 0.5m以上）、出隅用（外R・面取側の半径 0.5m以上）である。
プラ擬木階段	KD-P100 KD-P150 KD-P200 KD-PM100 KD-PM150	<ul style="list-style-type: none"> 車両等で搬入できない山林部では、プラ擬木の使用を標準とする。 設置場所により、プラ擬木階段縁止めの設置等の洗掘防止策を取る。 角材のプラ擬木階段は、踏み面を広く必要とするため、勾配の緩い所に適している。また、角材の背面はえぐられにくいので、踏み面を土で仕上げる場合に適している。 丸太のプラ擬木階段は、断面積が小さく運搬や施工がしやすい。踏み面を広く必要としないが、土の場合だとえぐられやすい。

S6 園路広場：参考図

名称	記号	内容
密粒度 アスファルト舗装	MAH-A MAH-B	<ul style="list-style-type: none"> 密粒度アスファルト舗装は、透水性舗装とする必要がない場合に使用する。 加熱アスファルト混合物は、原則として「がれき類の再資源化施設」の再生密粒度アスファルトを使用するが、調達できない場合に密粒度アスファルト（新材）を使用できる。

タイル舗装	TH-SA TH-SB TH-RA TH-RB	<ul style="list-style-type: none"> 伸縮目地とタイルの目地とを一致させ、表層についても縁を切るようにする。表面はシーリング目地とすることが望ましい。
-------	----------------------------------	--

7 遊戯施設 / S7 遊戯施設：参考図

名称	記号	内容
共通事項	—	<p>〈標準仕様〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊具の構造体はSGP（白）、あるいはSGP（黒）あるいはSTKとし、SGP（黒）やSTKの場合は電気亜鉛めっき4級以上とする。 鉄部、鋳鉄部の塗装は、素地ごしらえのうえアクリルまたはメラミン樹脂焼付塗装2回もしくは粉体塗装（指定色）、塗膜厚40ミクロン以上とするか同等以上の仕様とする。 ボルト・ナットは、塗装されるものについては電気亜鉛めっきとする。ボルト類は引っ掛かりのおそれのないものを使用すること。塗装は工場塗装を基本とする。 <p>〈構造〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊具（砂場を除く）の基礎埋込部は、内部からの腐食を防止するため砕石基礎から5cm以上のコンクリートのかぶりを取ることにしている。 遊具まわりを木チップ舗装とする場合は、基準GLより上に木チップ舗装を設ける。なお、やむを得ず木チップの舗装厚分基準GLを下げる納まりにした場合で、基礎の根入れ（土中部分の深さ）が変わってしまう場合は、別途構造計算を行い基礎形状の安全性を確認する。 <p>〈対象年齢シール貼付け〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊具（砂場を除く）には、各遊具に対応した対象年齢シール（遊具安全利用表示マニュアル（社）日本公園施設業協会編参照）を、図示の見やすい位置に2枚貼付ける。
すべり台 （小） （大）	SU-S SU-L	<ul style="list-style-type: none"> 確定寸法・細部形状・仕様等を明記した承諾図をもって確認する。 幼児・児童が共用できるものとするため、踏み板はしご（階段）は踏み板の奥行きと段差はすべり台（小）、踏み板の幅はすべり台（大）の数値を採用する。

ブランコ (児童用2連) (児童用4連) (幼児用2連) (幼児用4連)	BU-L2 BU-L4 BU-S2 BU-S4	<ul style="list-style-type: none"> • 確定寸法・細部形状・仕様等を明記した承諾函をもって確認する。 • 境界柵は安全領域の外側に設置する。また、通り抜けを防止するため、側面方向の境界柵開口部はブランコ本体支柱の内側に設置する。 <ul style="list-style-type: none"> • 着座部は「平板型」とする。利用者・利用方法を限定するような「バケット型」「ベルト型」は採用しない。
砂場	SN	<ul style="list-style-type: none"> • 塗料はホルムアルデヒド放散等級がF☆☆☆☆のものを使用し、施工の際は周囲に健康被害の及ばないよう十分配慮すること。 • 設置地盤面と砂場枠天端には、15cm程度の段差をつけることが望ましい。

8 サービス施設

名称	記号	内容
共通事項	-	〈標準仕様〉 <ul style="list-style-type: none"> • 木部は、加工後、防腐剤0.1%注入処理したひのき材とする。 鋼材部は、電気亜鉛めっきのうえ、工場塗装とする。 ボルト・ナットは、ステンレス（SUS304）とする。 • ベンチ類の座板の含水率は、木材の乾燥が不十分なためにひび割れが発生した事例があったので、品質規格として定めた。なお、含水率は工場での塗装の前に確認する。 • アンカーボルトは、本体とコンクリート基礎ブロックを固定する必要な機能を満たすものとし、特に種類を定めない。
共通事項	-	〈構造〉 <ul style="list-style-type: none"> • ベンチ類のまわりを木チップ舗装とする場合、木チップの舗装厚分基準GLを下げる納まりにすると、経年変化で木チップが消失した時に基礎が露出するので注意を要する。 • 木チップの舗装厚分基準GLを下げる納まりにした場合で、基礎の根入れ（土中部分の深さ）が10cm以下になってしまう場合は、別途構造計算を行い基礎形状の安全性を確認する。

ベンチ	TB-AF TB-AFG TB-AB TB-ABG TB-AH TB-AHG TB-BF TB-BFG TB-BB TB-BBG TB-BH TB-BHG	<ul style="list-style-type: none"> 座面の形状により、A・Bの2タイプを用意している。 Aタイプ：座面に傾斜を付け、座りやすさを重視している。 Bタイプ：座面を水平にし、かつ、座面の高さをAタイプに比べて高くすることで、筋力が弱い人でも立ち上がりやすいよう配慮している。 また、座面が水平のため手回り品を置いて安定している。 再生複合材仕様は高熱となるため、直射日光の強く当たるところには極力設置しない。 再生複合材はたわみやすいため、フラットバーが2本必要となる。
野外卓	YT	<ul style="list-style-type: none"> 本野外卓は短辺側を車椅子で利用できるような形状としている。 野外卓の周囲やアプローチ部分は車椅子の利用に支障のないよう配慮する。
水飲み	MN-B	<ul style="list-style-type: none"> 横水栓には、ユニバーサルデザインの考え方により子供や高齢者など誰もが使いやすいよう、吐出口回転研削長横水栓を採用している。 公共下水道が合流式の場合に設ける防臭トラップは、柵が小さいため下流の第一柵に設けるのが望ましい。 水飲みのまわりは、ぬかるみを防止するため舗装を行う。 車椅子での利用を考慮したもので、周囲に支障となるものや段差を設けない。
公園愛護会掲示板	AK	<ul style="list-style-type: none"> 強化ガラス仕様のため、設置する場所についてはボール遊びなどを十分考慮し、選定すること。

9 管理施設—1 《車止め・門柱》

名称	記号	内容
車止め 共通事項	—	<ul style="list-style-type: none"> 差込式車止めは、車椅子の通行の支障とならないよう、基礎天端に水切り勾配をつけない形としている。 差込式車止めの基礎形状は舗装部に設置することを前提としているため、ダスト舗装等、土系舗装部に設置する場合は、基礎露出による危険性を考慮して、コンクリート基礎の天端に面取りを行う。 差込式車止めは錠力バー設置を標準とする。
車止め	KU-AS KU-AK	<ul style="list-style-type: none"> KU-ASのシリンダー錠は、歩行者や車椅子の通行の支障とならないよう、公園内側（柱裏側）に設ける。
車止め	KU-BS KU-BK	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者が白杖により認識しやすいように、下部に横方向のパイプを追加している。
車止め	KU-CS KU-CK	<ul style="list-style-type: none"> バイクの進入抑制を図りつつ、車椅子が通行できるようにしている。 組み合わせて使用する車止めは、基礎天端に水切り勾配をつけない。 車椅子通行の利便性を考慮し、周囲1.5m以内は平坦とする。 視覚障害者が白杖により認識できないおそれがあるため、別の箇所に視覚障害者の導線を確保すること。

門 柱	MO-A MO-B	<ul style="list-style-type: none"> ・洗い出し仕上げの種石には、利用者が怪我をする恐れのないよう、丸みをおひたものを用いる。 ・MO-Aは2基1組となっている。
-----	--------------	---

10 管理施設—2 《柵・手すり》 / S10 管理施設—2 《柵・手すり》：参考図

名 称	記 号	内 容
パイプ柵 縦格子柵 プラ擬木柵 共通事項	—	<p>〈構 造〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「防護柵の設置基準・同解説」の歩行者自転車用柵P種の構造基準に準拠し、垂直荷重590N/m 水平荷重390N/m に耐える構造としている。これ以上の群集荷重がかかる場合は別途構造を検討する。 ・独立基礎の地耐力は長期98KN/m²、短期196KN/m²、水平方向地耐力はその1/3として設計している。 ・布基礎タイプは境界沿いへの設置に対応した基礎形状となっており、また園内からの土砂流出防止機能をもつ。 ・独立基礎タイプを法肩に近接して設置する場合、構造上、法肩から基礎ブロックの根入れと同じ距離を確保する必要があるが、法肩の浸食を考慮すると、基礎ブロック根入れの1.5倍以上確保することが望ましい。(基礎のないプラ擬木は支柱の地中長さを基礎ブロックの根入れと置き換える。) <p>〈標準仕様〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋼製柵の構造体にはSGP（白）を用いて、塗装は3回塗り（錆止め1回、中塗り1回、上塗り1回）を標準としている。ただし、縦格子柵は溶接箇所が多いため、構造体にはSGP（黒）を用いて、防錆は電気亜鉛めっきとしている。塗装は3回塗り（錆止め1回、中塗り1回、上塗り1回）としている。 ・ロープ柵・竹柵の杉丸太は、防腐剤無処理品を使用する。特に耐久性を要する場合は擬木製品等を使用する。
パイプ柵 (1段) (2段)	PF-1S PF-1W PF-2S PF-2W	<ul style="list-style-type: none"> ・主な用途は境界柵または立入防止柵である。
縦格子柵	TF-90S TF-120S TF-90W TF-120W TF-120SS	<ul style="list-style-type: none"> ・主な用途は境界柵または立入防止柵である。H1.2mタイプについては転落防止柵ともなる。 ・平地用と傾斜地用に区分して計上する。平地用は傾斜角2°（4%弱）未満とする。

<p>手すり (1段) (2段)</p>	<p>TR-1S TR-1W TR-2S TR-2W</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 使用にあたっては、「横浜市福祉のまちづくり条例・施設整備マニュアル」を参照する。 • 傾斜地の場合も手すり端部は水平に設置する。 • 独立基礎タイプは下部からの幼児のすりぬけ（転落）が考えられることに留意する。 • 布基礎タイプは階段、スロープ等の袖壁に対応した基礎形状となっており、土砂流出防止機能をもつ。 • 「防護柵の設置基準・同解説」の歩行者自転車用柵P種の構造基準に準拠し、垂直荷重590N/m 水平荷重390N/m に耐える構造としている。これ以上の群集荷重がかかる場合は別途構造を検討する。 • 独立基礎の地耐力は長期98KN/m²、短期196KN/m²、水平方向地耐力はその1/3として設計している。 • 独立基礎タイプを法肩に近接して設置する場合、構造上、法肩から基礎ブロックの根入れと同じ距離を確保する必要があるが、法肩の浸食を考慮すると、基礎ブロック根入れの1.5倍以上確保することが望ましい。 <p>• 端部処理は現場の状況にあわせ、下記の図等のように手すりの先端を巻き込むこと。最終の柱から手すりの端部までの長さは450mm以下とすること。</p> <p>端部処理の例</p>
<p>メッシュフェンス ネットフェンス</p> <p>共通事項</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 主な用途は境界柵または立入防止柵である。 • 布基礎タイプは境界沿いへの設置に対応した基礎形状となっており、また園内からの土砂流出防止機能をもつ。 • 独立基礎タイプを法肩に近接して設置する場合、構造上、法肩から基礎ブロックの根入れと同じ距離を確保する必要があるが、法肩の浸食を考慮すると、基礎ブロック根入れの1.5倍以上確保することが望ましい。 <p>• フェンス本体および基礎は風荷重を基として設計されているため、群集荷重が想定される箇所には設置しない。</p>

メッシュフェンス	ME-120S ME-150S ME-180S ME-200S ME-120W ME-150W ME-180W	<ul style="list-style-type: none"> • 平地用と傾斜地用に区分して計上する。平地用は傾斜角1°（約2%）未満、傾斜地用は傾斜角1°（約2%）以上5°（約9%）以下を標準とする。これを超える場合は、別途基礎構造を検討すること。なお、傾斜地用はフェンス延長方向の傾斜に対応したものであり、横断方向は平坦（基礎の根入れを減じる下り勾配が付いていない）とする。 • 法面の勾配が30度を超え、かつ高低差1m以上の法肩には設置しない。 • ポールが頻繁に当たると取付金具が損傷してメッシュパネルがはずれることがあるため、運動広場などのボールが直接当たる箇所には別途グランド対応タイプを検討する。 • 傾斜地用は勾配に合わせてメッシュパネルを製作するため、場所ごとに勾配が変化する自然斜面への設置は避ける。
ネットフェンス	NE-120S NE-150S NE-180S NE-200S	<ul style="list-style-type: none"> • 平地用と傾斜地用に区分して計上する。平地用は傾斜角1°（約2%）未満、傾斜地用は傾斜角1°（約2%）以上5°（約9%）以下を標準とする。これを超える場合は、別途基礎構造を検討すること。なお、傾斜地用はフェンス延長方向の傾斜に対応したものであり、横断方向は平坦（基礎の根入れを減じる下り勾配が付いていない）とする。 • ネットフェンス本体製品の対応傾斜角が上記と異なる場合は、製品の対応傾斜角によるものとし、確認のうえ使用する。
コンクリート柵	CF	<ul style="list-style-type: none"> • 主な用途は境界柵である。山林内などの景観的に重要でない場所、斜面地などのメンテナンスが困難な場所等に使用する。
ロープ柵	RF	<ul style="list-style-type: none"> • 主な用途は立入禁止の意思表示である。 • ロープは、耐久性を重視する場合はビニロンロープ（いわゆるクレモナロープ）、庭園など景観性を重視する場合はしゅろロープとする。
番線柵	WF	<ul style="list-style-type: none"> • 仮設柵として用いる。
プラ擬木柵	GF-1 GF-2	<ul style="list-style-type: none"> • 車両等で搬入できない山林部では、プラ擬木の使用を標準とする。
縦格子柵 (手すり付)	TFT-1S TFT-1W TFT-1SS TFT-2S TFT-2W TFT-2SS	<ul style="list-style-type: none"> • 主な用途は境界柵または立入防止柵である。H1.2mタイプについては転落防止柵ともなる。 • 平地用と傾斜地用に区分して計上する。平地用は傾斜用2°（4%弱）未満とする。 • 布基礎タイプは境界沿いへの設置に対応した基礎形状となっており、また園内からの土砂流出防止機能をもつ。 • 傾斜地の場合も手すり端部は水平に設置する。
単管柵	TKF-A TKF-B	<ul style="list-style-type: none"> • 主に仮設柵として用いる。 • Aタイプは曲がり部に使用しやすく、Bタイプは直線部に使用しやすい。